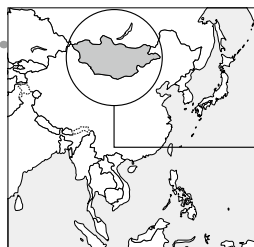


ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Mongolia

モンゴル



地図は参考のために掲載したもので、
国境の法的地位について何らかの立場を
示すものではありません。



サーカスが教えてくれた生きる勇気

アパートの階段下での暮らし

ゾリグくんは、モンゴル第二の都市ダルハンに暮らす男の子です。ゾリグくんのお父さんはアパートの清掃をして、アパートの住民からわずかなお金をもらい、ゾリグくと二人で何とか暮らしています。二人が暮らすの



はアパートの階段下のせまいスペースです。階段下では湿気がたまりやすく不衛生なため、病気にもかかりやすくなります。ゾリグくんは貧しいことを理由に、アパートの住民の子どもたちからいじめを受けたこともあります。しかし、生活に余裕がなく、家賃を払うことはできません。また、冬はマイナス40度にまで下がる厳しい寒さをしのぐためにも、この場所で生活するほかありません。食事にありつける日は少なく、ゾリグくんはレストランの裏通りで食べ物の残りをあさる日々を送っていました。

サーカスとの出会い

しかし、1年前、ゾリグくんの生活は、あるモンゴル人夫婦との出会いによって大きく変わりました。以前、サーカス団員をしていたこの夫婦は、列車の中で浮浪していた子どもたちの暮らしに心を痛め、子どもたちの社会復帰を目的にダルハンで支援を始めました。この活動によって、親を亡くした子どもたち、マンホールの中やアパートの階段下などで暮らす子どもたち



が、食事の提供や非公式の教育を受けることができるようになったのです。

子どもたちが一番楽しみにしているのは、夫婦の指導で行われているサーカスクラブ

です。これまでサーカスの練習場所として劇場の一角や教会を借りてきましたが、広さが十分ではありませんでした。数年前、住宅地の近くに少し大きな部屋を借りることができ、今はここで約30人の子どもたちがサーカスのトレーニングを受けています。予算が足りないため、サーカスで使われる道具はケチャップの空きボトルを再利用するなど、工夫して作られたものです。ゾリグくんの得意技はジャグリングです。最近は先生の補助を受けて宙返りなど難しい技にも積極的に挑戦しています。ゾリグくんは新しいサーカスの技を覚えるのが楽しくて、サーカスクラブに行く日は心おどる気持ちです。

子どもたちはダルハンの誇り

この教室で高度な技を身につけて、ヨーロッパなどの海外で活躍するようになった子どももいます。ひたむきに練習に励んでいる子どもたちは、人生をかけているような真剣な表情です。ゾリグくんは、これからもサーカスを続けたいと満面の笑みを浮かべて話します。「ケガなんてこわくないんだ。みんなが喜んでくれるのが楽しいよ。将来はどうなるかわからないけど、ぼくも海外へ行ってみたいな。そして、もっとたくさんのお客さんに喜んでもらいたいんだ。」

毎年、ダルハン市内にある劇場で、子どもたちは何百人もの

市民の観客たちを前に華麗な演技を披露し、大きな拍手を浴びています。新しいことを学ぶこと、先生や仲間、まわりの人たちから応援され認められることが、ゾリグくんをはじめ厳しい環境で生きる子どもたちの希望につながっています。



<文・構成：(公財) 日本ユニセフ協会>

物語の国 モンゴル

ロシア、中国という二つの大国に挟まれた内陸国のモンゴル。日本の約4倍の面積に約281万人の人口が暮らしています。1992年の人民革命により、ソ連によって支えられた社会主義体制から民主化・市場経済化へ移行したことで、物価の高騰、社会保障制度の崩壊、治安の悪化、貧困など様々な問題が発生しました。近年、豊富な鉱物資源の開発事業が活発で、経済は順調に発展しています。しかし、急激な経済成長の一方で、都市部と農村部の間で拡大する格差が懸念されています。



©日本ユニセフ協会
ウランバートル市ナライハ地区の
ゲル集落で暮らす子どもたち

格差の中で生きる親と子どもへの支援を最優先に

モンゴル国内の格差は、経済のほか、教育や社会サービスなどにもみられ、【表1】のように安全な水や衛生施設の利用については、都市部と農村部での格差が顕著に表れています。ユニセフは国内の格差是正と社会福祉に重点を置いた政策を進められるよう、モンゴル政府への政策提言を行いながら支援事業を進めています。また、データ収集と分析を図るとともに、子どもにやさしいコミュニティや学校づくりなどを中心に子どもたちへの包括的支援活動を行っています。今回は、ダルハンオール県ダルハン市で実施されているユニセフの支援事業を紹介します。

【表1】モンゴルの子ども

(より詳しい統計は「世界子供白書2012」をご覧ください。)

項目	モンゴル		
5歳未満児死亡率(1,000人中、2010年)	32		
改善された水源を利用する人の比率(%) (2008年)	全国	都市	農村
	76	97	49
改善された衛生施設を利用する人の比率(%) (2008年)	全国	都市	農村
	50	64	32
児童労働に従事した5～14歳の子どもの比率(2000-2010*)	全体	男	女
	18	19	17
国際貧困ライン1日1.25米ドル未満で暮らす人の比率(%) (2000-2009*)	22		
1人あたりの国民総所得(米ドル)(2010年)	1,890		

* データは指定されている期間内に入手できた直近の年次のもの。出典：「世界子供白書2012」

「クラブに参加させること」など親の保護義務を約束させるものです。かつて製鉄業などで栄えた工業都市のダルハンでは1990年代に工場閉鎖が相次ぎ、多くの親が失業し生活が忙しかったため、子どもにかまわない、子どもをしつけなくなったという世情が少年犯罪などマンホールや階段下で暮らす子どもたちの問題を反映しているのです。

家庭開発プロジェクト

厳しい気候の中で遊牧民生活を送ってきたモンゴル人は、家族という集合体での自立心が強いといわれます。モンゴル政府は2012年を「家庭開発支援の年」と定め、生活の基盤である家庭を第一に考えた取り組みを行っています。子どもたちに保健や教育などの社会サービスを提供していく上で、家族一人ひとりの保健や教育に関する問題解決や対応能力を育成することが大切と考えるからです。家族の意識向上や行動改善を目的とし、ユニセフとの協力で全国で行われている家庭開発プロジェクトでは、ダルハンオール県の4つの村から477世帯が選ばれました。各世帯にゲルの形をした評価シートが配布され、教育、健康、収入と支出など38種類の項目について、各世帯が自分たちで評価します。評価項目の達成率に応じて、ソーシャルワーカーから指導を受けます。



©日本ユニセフ協会
ゲルの形をした評価シート



©日本ユニセフ協会
評価項目の内容を絵で
分かり易く説明したもの

ダルハン市子ども局との連携

ユニセフは、ダルハン市子ども局と連携し、さまざまな理由で厳しい環境に置かれている子どもたちの問題に取り組んでいます。子ども局は、栄養不良などで発育阻害に陥っている子どもたちが夏季休暇中、栄養を十分に補給し、自然の中で休暇を過ごすようサマーキャンプを実施しています。体の不自由な子どもたちも療養のため、親と一緒に参加しており、毎年250～300人ほどの参加者が集います。



©日本ユニセフ協会
サーカスクラブの子どもたち

「子ども物語」に登場するゾリグくんが通うサーカスクラブは、ダルハン市子ども局との協力で続けられています。サーカスクラブは子どもたちを犯罪から保護する観点からとても重要な意味があります。2011年、ダルハン市では子どもの犯罪率が前年よりも増加したことを受けて少年犯罪の防止に取り組もうと、ユニセフとの協力でできた「子ども保護委員会」が中心となり、罪を犯した子ども・保護者・子ども局との間で3者協定を結び、「初犯を犯した子どもたちを社会の中で育成する」体制を整えています。協定内容は「親が子どもとの触れ合いに一定時間を費やすこと」や「子どもを学校に通わせること」、

移動式ゲル幼稚園

モンゴルでは2～6歳の子どもたちの74.5%が幼稚園や他の就学前教育プログラムなどに参加して幼児教育を受けています。しかし、状況は地理的条件によって大きく異なります。一般的に幼稚園は多くの人々が暮らす村の中心部にあり、50～200キロ近く離れた地域に暮らす放牧家や遊牧民の子どもたちにとっては通園が難しく、幼児教育を受けられる割合は低くなっています。ユニセフはモンゴル教育文化科学省と協力し、2008年から2011年にかけて遠く離れた村々への家具や子どもの遊び道具の提供も含め、79の移動式ゲル幼稚園の運営と教師の育成を支援する活動を行ってきました。ゲルを使った幼稚園は経済的で、組み立てが簡単で移動しやすいという利点があります。遊牧民などが集まる場所で開園することができるため、親とのコミュニケーションも図ることができます。移動式ゲル幼稚園は6月から8月までの3ヶ月間、開園しています。トレーニングを受けた教師のもと、子どもたちは文字や数を学んだり、ゲームや劇などに参加したりしています。



©日本ユニセフ協会
ユニセフとモンゴル政府の協力
によって2008年、ダルハン市オ
ホン村に建設された第9幼稚園。

モンゴル指定募金のご案内

移動生活の子どもたちを守る

モンゴルの子どもたちへの支援事業は、日本全国の学校からご協力いただく募金によって支えられています。

郵便局(ゆうちょ銀行) 振替口座：00190-5-31000
口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
通信欄に「モンゴル」と記入してください。

*送金手数料免除(窓口振込のみ)

モンゴル指定募金資料キット

学習や募金活動資料として「資料キット」の貸し出しをしています。モンゴルの遊牧民の子どもたちの生活やユニセフの活動をわかりやすく紹介していますので、ぜひご利用ください。

指定募金資料キット

1. 事業の背景・解説 (CD-ROM 含む)
2. 掲示用写真資料 10 枚
3. DVD「移動生活の子どもたちを守る」
4. 発育観察記録用紙、幼稚園の教科書
5. 子どもたちの作品

貸し出しをご希望の方は、
学校事業部へお問い合わせください。 TEL: 03-5789-2014